

会瀬

フネトマト

会瀬学区 HP <http://www.net1.iwav.ne.jp/com-ose06/>

第226号

発行責任者：柴田 和彦
編集責任者：皆川 直司
電話：会瀬交流センター
0294-25-1577
印刷：大成印刷株



2019.平成31年 謹賀新年

鎌田氏 撮影

明けましておめでとございます

2019年の新春を健やかに御迎えのこととお喜び申し上げます。

常日頃から、地域の皆様、学区内各種団体の皆様方のご支援ご協力を賜りながら、安全、安心な地域づくりや学区福祉等発展的な活動が推進されていることに対し厚く御礼申し上げます。

さて、本年は年号が変わる節目の年です。10月には、「いきいき茨城国体2019 翔べ羽ばたけそして未来へ」が開催されます。会瀬学区は国体開催に向けて意識の高揚をはかりながら各県からくるみなさんのおもてなしの気持ちを表す「まちを花で飾ろう」事業として会瀬交流センター・玄関前東側に「花壇」を造作しました。また、国道、県道に接するゴミ収納ボックスを中心に「みんなできいな会瀬づくり」の表示板を取り付け地域の活性化につながる活動にしました。東日本大震災からの防災面では、津波高潮等から地域の生命財産を守る事業である海岸保全施設工事が6月には会瀬海水浴場周辺沿いまで進み年度期末には全てが完了致します。

会瀬学区コミュニティは、活動の着眼点の一つに「自分の地域は自分の創意と努力で作る上げる」という理念に基づいて行われています。会瀬海浜多目的広場もその一つで、当初は残土等の置き場でしたが地域住民の発案で、残土が撤去され夏祭り行事や高齢者向けのグラウンドゴルフ場として活用されています。「高齢化社会」体は今あるものを守ることに徹すると次第に衰えます。どんな年齢でも目標を持って訓練すれば強く元気になります。楽しく生きるためにも健康がカギです。

今後とも、学区は地域住民から寄せられた意見、要望等については身近な問題としてとらえ地域活動に活かしてまいります。本年が地域の皆様にとりまして、健康で実り多き一年でありますよう心からお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

会瀬学区コミュニティ推進会
会長 柴田 和彦

** お知らせ **

第二十九回 「浜の焚きあげ祭」のご案内

地域の皆様のふれあいを深め、一人一人の健康と安全安心を願い、子どもたちの健全育成を祈る「浜の焚きあげ祭」も二十九回を迎えます。今回も会瀬小学校の理解と協力によりまして授業の一環とし全校生徒が参加した行事となりました。児童たちの健康と安全を考慮して昨年と同様時間を早めて計画しています冬の午後子どもたちの元気な姿を見てください。

期日 平成三十一年一月十五日 火曜日
悪天候の時は順延

場所 会瀬青少年の家グラウンド
主催 会瀬学区コミュニティ推進会
協力 会瀬小学校・同PTA・子ども会育連合会・日立第四消防団
日程 小学生

午前中 普通授業 雨天の場合は不参加で普通事業
十三時四十分 会場到着 先生の指導で凧揚げ見学
十四時十五分 焚きあげ祭 開始
二十五分 点火 浜太鼓見学
十五時十分 通学班で自宅へ
地域の方々 十五時以降は大人の時間
焚きあげる物 しめかざり、門松、しめなわ、飾り松、神社のお札、お守り、だるま等
その他正月の飾りもの、書き初めの反古紙等。
* 一月十四日(月)
正午以後に焚きあげる物ご持参ください。
交流会 甘酒、お茶、漬け物、ジュース類は用意します。
酒類は各自ご持参下さい。
消火 十七時に消火します。

おもちゃライブラリー 1・2・3月開催

金曜日
9時30分～11時30分

1月11日	2月1日	3月1日
18日	8日	8日
25日	15日	15日
	22日	22日

1月11日 毎月第1金曜日
1月25日 第1の休みの日
2月15日-22日 2月の長期休暇期間中

会瀬交流センター
電話 25-1577

健康料理教室 参加者募集

～減塩食で生活習慣病予防～

日時 平成31年1月16日(水)
10時開始

場所 会瀬交流センター

会費 ひとり200円

持ち物 ・三角巾・エプロン・電卓
・みそ汁(半カップ)
・ピクルス

メニュー ・野菜たっぷりおでん

募集人数 若干名
申込み先 直接電話で
会瀬交流センター 25-1577
【問い合わせ】
会瀬地区食生活改善推進委員
菊地 智子 35-3847

生涯学習 映画会予告

平成31年2月2日(土)
会瀬交流センター 開始午後1時
☆おおせふるさとシリーズ
☆綾小路きみまろ
詳細は市報1月20日号折り込み
会瀬交流センター 25-1577

【編集後記】

会瀬旧述の著作者は瀬谷義文だが子孫の現在の会瀬鹿島神社宮司も瀬谷義文氏。江戸期の義文氏は会瀬海岸をくまなく散策し、見たり聞いたたり調べたりしたようです。

人間の手が加えられていない会瀬浦の自然な姿を紹介できれば幸いです。

・昭和も遠くなくなってしまふような年です。背筋を伸ばして元気に過ごしましょう。

交流センター 年末年始 休館日のお知らせ

12月29日(土)から
1月3日(金)まで
休館日となります
12月28日(金) 館内清掃
【問い合わせ】
25-1577

～会瀬交流センター 協力員・市報梱包配送業務員募集～

〈協力員〉
交流センターの業務や地域活動の支援にかかわってくださる方を募集します。会瀬学区在住、パソコンのできる方
・普通免許・健康で意欲のある方
2019.4月から勤務できる方
*募集人数:2名(女性)
*内容:週3～4日 8:30～17:00
*賃金:850円/1時間

〈市報梱包・配送業務員〉
*募集人数:2名(男女問わず)
*内容:月2回市報梱包・配送
*報酬:あり *普通免許
【応募方法】
1月7日(月)～1月14日(月)までに市販の履歴書を持参してください。
《問い合わせ》 会瀬交流センター
25-1577

福祉功労者が顕彰されました

◎日立市社会福祉協議会会長顕彰
 平成三十年十一月十四日、日立市社会福祉協議会の「ふくしのつどい」が、日立シビックセンター音楽ホールに於いて開催され、多年にわたり地域福祉活動を実践されて、社会福祉の発展に寄与された功労者が顕彰されました。
 会瀬学区からは、左記の方が顕彰されました。
 ◎社会福祉活動協力援助者（在職五年以上）
 北見 益代氏（おもちゃライブラリー委員）

地域と学校の協働活動

会瀬小学校は地域とともにある学校づくりのための学校運営協議会制度（コミュニティスクール）を平成29年度県北で最初のモデル校になり学習支援を行っています。今年で2年目これまで行った活動の紹介をします。
 ☆3年生「会瀬のすてきな人を見つけよう」
 ・久慈浜漁業協同組合会瀬支所の方には
 会瀬学区の漁業について知り
 会瀬港にあがる魚の種類や漁獲方法、漁業という仕事の喜びや苦労など
 ・小平記念館勤務の沼田 祐美さんには
 日立市の産業の礎である日立製作所の歴史や製品について
 ・皆川直司さんには、会瀬小の歴史や昔の学校生活、けやき、戦争の様子について
 ☆5年生社会科「水産業のさかんな地域」
 ・久慈浜漁業協同組合会瀬支所の方には
 茨城県や会瀬の漁業について、漁業者の一日の生活について



☆5年生家庭科「ひと針に心をこめて」
 地域の方々の指導で糸と針を使って、手縫いの基礎を身につける。

☆6年生 総合学習「伝え合おう！日本のよさ・日本の心」を昨年引き続き
 ①茶道 ②華道 ③和裁（刺し子）④百人一首 ⑤墨絵 ⑥箏 ⑦菓子（ビスコイト）を行いました。
 3学期には、昔遊びその他の授業に学習支援ボランティアの支援活動が行われます。
 学校からコミュニティへ砂遊び集会支援
 地域から学校への支援事業として
 学区防災訓練、三世代敬老の集い
 1月15日（火）浜の焚き上げ祭など

ふるさと会瀬から

会瀬旧述

会瀬の昔のことが知りたいという子ども達や、大人にとっても貴重な書物が近年、目の見ることにになりました。長い間、行方知れずになっていた「会瀬旧述」が日立市名誉市民であった瀬谷義彦先生の蔵書の中から、平成26年発見されました。「会瀬旧述」の著者は成沢村鹿島神社神官瀬谷義文であり、瀬谷義彦先生の先祖であります。二百年以上前の会瀬村についての伝説や伝承そして地誌などが著わされたものです。内容の概要を今後、連載する予定。なお、原本を解読したのは元郷土博物館館長小松徳年氏ですが、わかりやすく口語訳して紹介します。

会瀬旧述

会瀬の浦は、水戸から約28km東北にある磯が多い浦である。彦星（牽牛星）と織女星が7月7日の夜、五色の雲に乗り、この浦の磯に降り立ったという地元の伝説から、浦の磯を七夕磯と会瀬村では云っている。磯の先端にある二つの大石に降り立ったので、この二つの石を夫婦石と云い、どんな潮時でも見る事ができる。夫婦石は岸から約四百m沖にあって、いつでも白波が打ち砕けているのははっきりとわかる。沖合から打ち寄せた波は、夫婦石で二つに分かれ、南側を男波、北側を女波といい磯伝えに岸まで寄せてくる。
 牽牛星と織女星が出会い、喜び合った磯（瀬）なので会瀬の浦と名付けられた。

附記

・八世紀に編纂された常陸風土記に「助川の駅家あり。昔、遇鹿（あふか）と云った。古老の話では武の天皇がこの地に来たとき、皇后が訪ねてきて遇ったので遇鹿と名付けた」と記されている。逢って喜ぶ意味から逢賀として相賀と変わったが「水府志料」（江戸期）には「会瀬浦、村名初めは相賀村と称す。古来は会瀬と云っていたので会瀬村に改められた」とある。

・磯に囲まれた美しい会瀬浦に生まれた伝承や伝説は長い年月を経ても、色あせぬものであった。七夕磯の先端にある二つの大石は昔と変わらぬ姿を見せている。どんな潮時でも見る事ができるとあるが大きな変容があった。

東日本大震災は海底地盤沈下をもたらしたが、会瀬海岸一帯では約70cm海底が沈降した。その結果、満潮時には二つの大石は波間に隠れ見えなくなってしまう



12月12日（水）講師の方々を迎え報告会が行なわれました。それぞれのグループで実演も含め（箏、茶道、百人一首）ひとりひとりが発表を行いました。

